



国連工業開発機関(UNIDO)事務次長
(元東京事務所長)

安永 裕幸

世の中で「科学技術」というと、開発途上国には縁遠いものだと考える人も残念ながらまだ多い。だが、科学技術イノベーションこそは、こうした国々における持続可能な開発目標(SDGs)達成に不可欠のものだと考える。

未来を 変える

科学技術イノベーションとSDGs

小職が所属する会社日本工学アカデミーは、工学者の立場から、特にアフリカの経済発展・社会課題解決のために科学技術イノベーションの分野から何を行うべきかを1年以上にわたって検討し、ほぼその最終

- 1、アフリカと日本の研究拠点・イノベーション拠点をネットワーク化する「知のバリエーション」の創出(日本とアフリカの大学の連携拠点の設立など)
- 2、アフリカの国立研究所の強化への協力(農業、医療・保健衛生、工業化、防災、環境など)
- 3、アフリカの大学教育の強化に向けてのコンテンツ面の協力(放送大学コンテンツの英訳・仏訳と配信)や若手招聘事業の拡大による人的交流の拡大
- 4、日本の科学技術イノベーション(工場、ゲーム、産業技術、医療・福祉、生活インフラなど)やアフリカのチャレンジの魅力を双方の若者に視覚的に訴求するコンテンツ制作・配信事業(HOT & Cool Afro-Japan Project(仮称))の立ち上げ
- 5、データ駆動型のアフリカ高度開発・農業開発・社会課題解決を図るための「アフリカ課題解決データ・ネットワーク(仮称)」の立ち上げ
- 6、民間経済団体が提唱

アフリカ発展への11アクション

日本工学アカデミーが提言

- 7、アフリカの工業化推進施策・中小企業振興政策への知的支援(政策専門家長期派遣等)
- 8、国を跨ぐエネルギーインフラや農村向けスマートグリッド(次世代電力網)、再生可能エネルギーや水素インフラの構築とそれに向けての人材育成支援
- 9、感染症予防に関する日本とアフリカの大学・研究機関の連携促進と、アフリカの事情に合致したブロックなどの共同研究開発
- 10、STI for SDGsに関する「拡大関係会合」の開催と、国際機関・学術界・産業界を糾合した議論の「場」の設置
- 11、2025年の大阪万博での「STI for SDGs in Africa」展示と運営によるSTI分野の日・アフリカ間の協力事業のショーケース



TICAD77の展示会で、日本企業の産業用無人ヘリコプターをアフリカの政府・企業関係者が視察

やすなが ゆうこう 86年(昭61) 東大院工学系研究科修士課程修了、同年通商産業省(現経済産業省)入省。新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)企画調整部総括課長、経産省産業技術環境局研究開発課長、同原子力安全・保安院ガス安全課長、資源エネルギー庁資源・燃料部鉱物資源課長を歴任。13年大臣官房審議官、15年産業技術総合研究所理事・企画本部長などを経て、17年国連工業開発機関(UNIDO)東京事務所長、22年7月UNIDO事務次長。06年博士(工学)。